

平成 22 (2010) 年さけます来遊状況 (第 1 報 : 7/31 現在)

独立行政法人水産総合研究センター -
さけますセンター -

7月に入り北海道東部の沿岸ではカラフトマスを対象とした小型定置網漁業が解禁となり、8月下旬からは秋サケ定置網漁業が開始されます。

今年も毎月末にさけます来遊状況を作成しますが、第 1 回目として 7 月 31 日現在の北海道におけるカラフトマス来遊状況をお知らせします。

なお、来遊状況の取りまとめにあたり、本年も道県及び増殖団体の関係者の皆様方には迅速な情報提供などのご協力をお願いいたします。

1 カラフトマス来遊状況

- ・来遊数は 16 万尾 (対前年同期比 : 18.2%、平年同期比 : 45.7%)
- ・オホ - ツク海を含む日本海側で 10 万尾 (対前年同期比 : 12.5%)、根室海区を含む太平洋側で 6 万尾 (対前年同期比 : 75.0%)
- ・今年是不漁年に当たる

(北海道)

7 月 31 日現在、北海道のカラフトマス来遊数は 16 万尾 [対前年同期比 : 18.2%、平年 [平成元 (1989) 年 ~ 平成 21 (2009) 年の平均] 同期比 : 45.7%] となっています。これは、今年、平成 22 (2010) 年がかラフトマスの不漁年に当たるためです。

豊漁年と不漁年が入れ替わった平成 15 (2003) 年 ~ 16 (2004) 年以降の同じ時期と比べてみると、不漁年に当たる平成 20 年 (2008) 年には 35 万尾、16 (2004) 年には 20 万尾、及び 18 (2006) 年には 18 万尾を示しており、近年では今年が最も低い来遊数となっています。(表 1 及び図 1~3)。

一方、地域別にみると、日本海側 (オホ - ツク海区及び日本海区、以下同) では 10 万尾 (対前年同期比 : 12.5%)、太平洋側 (根室 ~ えりも以西海区、以下同) では 6 万尾 (対前年同期比 : 75.0%) と日本海側で前年同期と比べて大幅な減少を示しており、地域差がみられる来遊状況となっています。

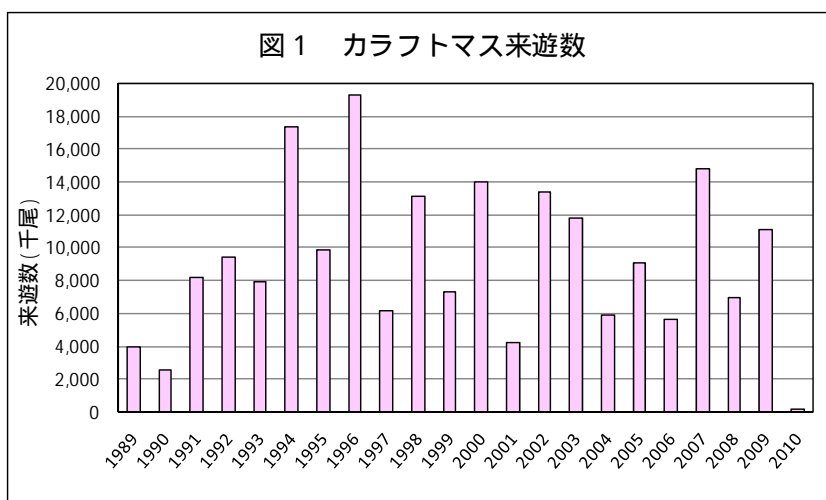
カラフトマスの来遊時期は奇数年には早く、偶数年には遅くなる傾向があります(図 4)。平成元 (1989) 年以降の同じ時期と比べて平成 21 (2009) 年が 88 万尾と、168 万尾を示した平成 19 (2007) 年に次いで 2 番目の高水準であったため、豊漁年であった昨年同期と比べて不漁年に当たる今年のカラフトマス来遊数が大幅に下回っています。

以上のように、今年は一昨年と比較して低調なスタートであり、遅い来遊となる状況が

想定されていますので、関係者の皆さんには 8 月中旬～下旬の盛漁期に向けて今後の漁獲動向を注目しつつ、これまでの旬別来遊数等の実績を参考としながら、計画的な種卵確保に向け努力されることを期待します。

表 1：カラフトマス来遊数（北海道） 単位：万尾

	北海道	
	7/31 現在	最終
2010 (H22)	16	-
2009 (H21)	88	1,111
2008 (H20)	35	693
2007 (H19)	168	1,484
2006 (H18)	18	559
平年	35	987



注：平成 22 (2010 年) は 7 月 31 日現在

図2 カラフトマス旬別来遊数

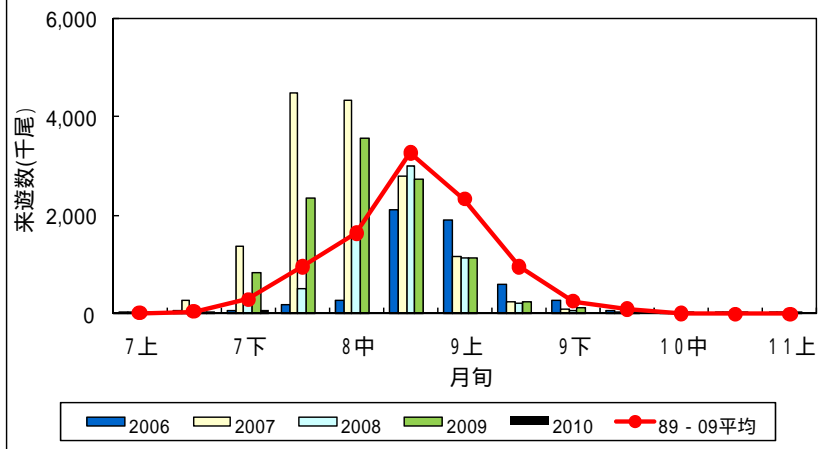


図3 カラフトマス旬別累積来遊数

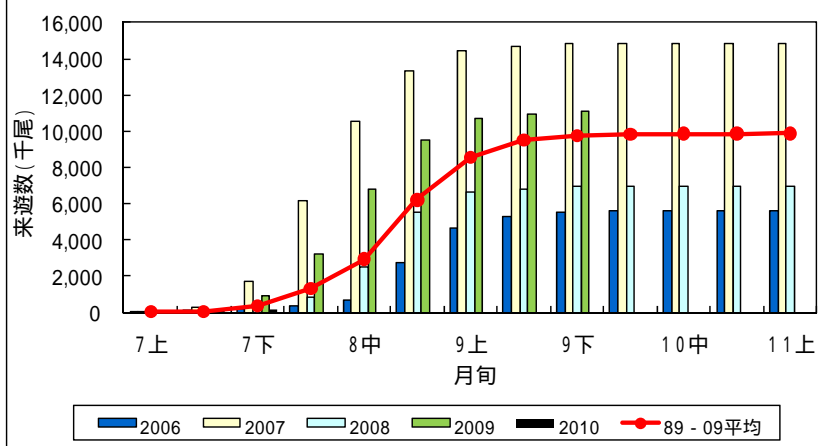
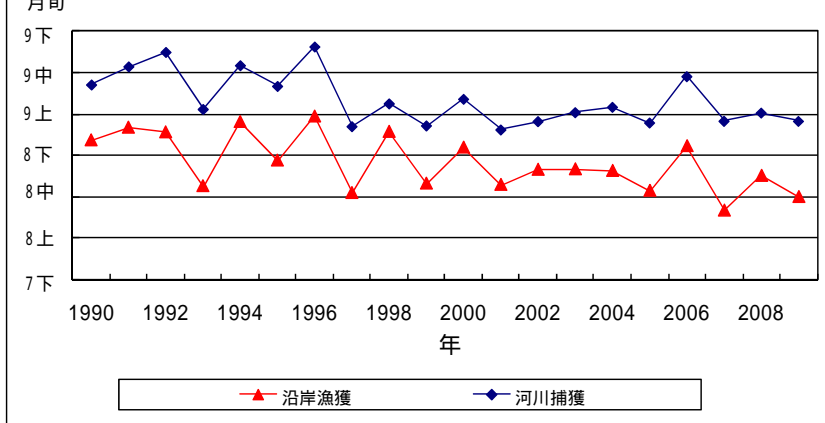


図4 沿岸漁獲及び河川捕獲の重心

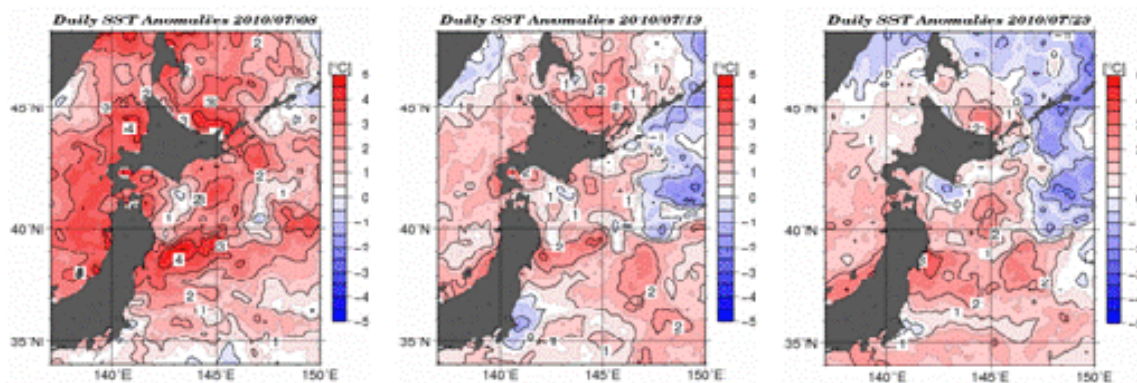


2 北日本の海況

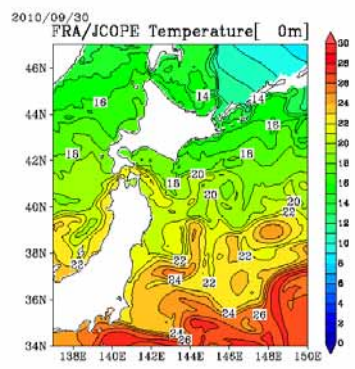
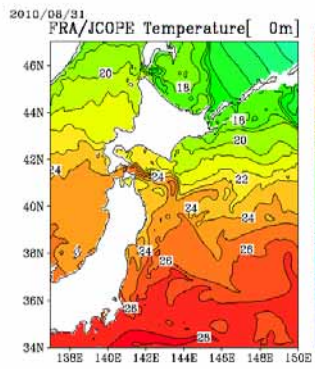
気象庁における7月30日発表の「海洋の健康診断表」(発表:函館海洋气象台)によると、北海道周辺・日本東方海域では、6月下旬から引き続き、海面水温が平年より高い状態が続いています。日本海北部とオホ・ツク海南部では、7月中旬と比べると、海面水温が平年より1以上高い海域が縮小しています。また、オホ・ツク海南部では、海面水温が平年より3以上高い海域が7月中旬にみられましたが、7月下旬にはみられなくなりました。日本海北部とオホ・ツク海南部は、次第に平年並となる見込みです。(7月30日発表の海面水温・海流1か月予報参照)。

http://www.data.kishou.go.jp/kaiyou/db/hakodate/archive/2010/07_3/hakodate_sst/hakodate_sst.html

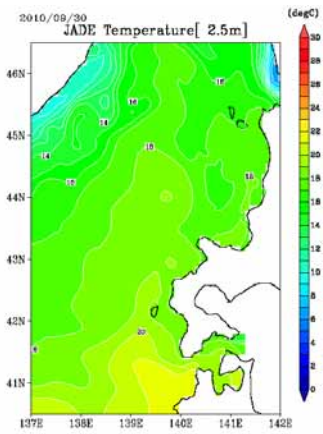
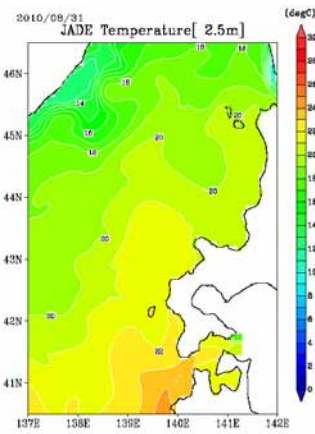
これら海況情報をみると、北海道周辺では全般に海面水温が平年より高く、カラフトマスの主産地であるオホ・ツク及び根室海峡も同様であり、特にオホ・ツク海南部において7月上旬から下旬にかけて平年より2~3以上高い海域がみられることから、今後の来遊に関する水温変動について注視する必要があります。



なお、水産総合研究センターの「太平洋および我が国周辺の海況予測モデル (FRA-JCOPE)」、「日本海海況予測モデル (JADE)」では、北海道・東北ブロック及び日本海の海況と2ヶ月間の予測を公開しており、一般の方も次の内容がご覧になれます。



(FRA-JCOPE) <http://fj.dc.affrc.go.jp/>



(JADE) <http://jade.dc.affrc.go.jp/>